

希少鳥類の保全上の新たな課題 ～シカ等の増加による低層湿原の衰退の可能性～



多田 英行 (日本野鳥の会岡山県支部)



要旨：本発表について

- ・**湿地性希少鳥類**(チュウヒやオオセツカなど)の保全のためには、生息地となりえる良好な植生の保全が必要である。
- ・因果関係は十分に立証できていないものの、**シカ・イノシシの増加**と同時期に、**ヨシ・スゲ群落の衰退**が観察されている。
- ・今後、同様の現象が各地の低層湿原でも起きる可能性がある。



1. 観察地の概要(錦海塩田跡地と希少鳥類)



観察地の位置(広域写真:岡山県)



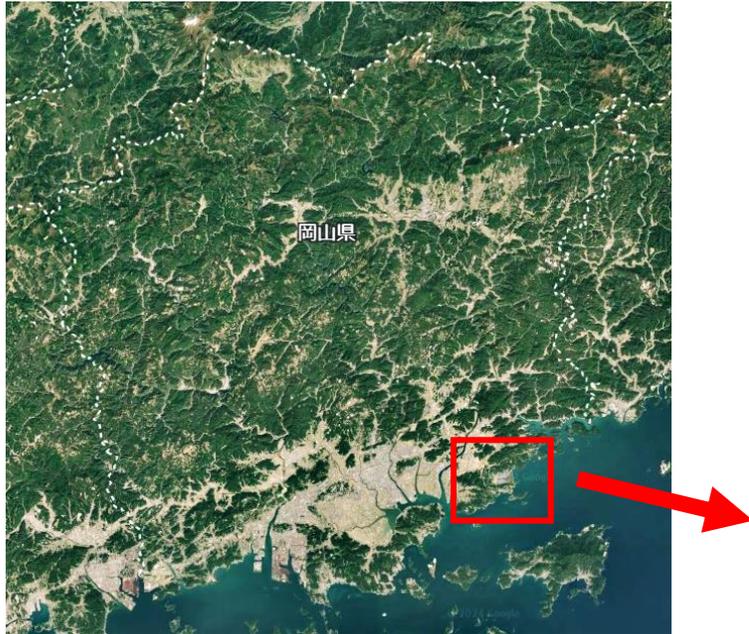
観察地の概観(錦海塩田跡地)

元々は遠浅の海だった場所を塩田として干拓し、塩田廃止後にはヨシ等からなる低層湿原や草地に遷移。現在は面積の半分ほどをメガソーラーが占める。

広大なヨシ原や、スゲ等の下層植生を伴うヨシ原があることから、岡山県内では希少なチュウヒの繁殖・越冬地およびオオセツカの越冬地となっている。



1. 観察地の概要(シカやイノシシの状況)



シカ・イノシシの侵入

当地は三方を山に囲まれていることから、低層湿原内への動物の侵入が容易な環境となっている。

本発表で主に取り上げるシカやイノシシは、獣道の状況から推定して、**山から低層湿原内に侵入**していると考えられる。また、低層湿地内で幼獣を見かけることから、**当地で繁殖している可能性**が高い。



2. 低層湿原内のシカ



繁殖期には雄ジカの鳴き声が観察される



親子や群も観察される



2. 低層湿原内のイノシシ



水路を渡って移動する姿も観察される



農地との隣接部分では親子を見かけることも多い



2. 低層湿原内のシカ・イノシシの行動

- 当地には以前からシカ・イノシシの生息が確認されていたが、近年は目撃頻度が増加している印象がある。
- 低層湿地内には主に採食のために訪れている様子。
- 採食内容の詳細は不明だが、シカはヨシの若芽やスゲ類などの下層植生を採食していた観察例あり。イノシシの採食内容は不明。
- シカ・イノシシの獣道は増加傾向にある。

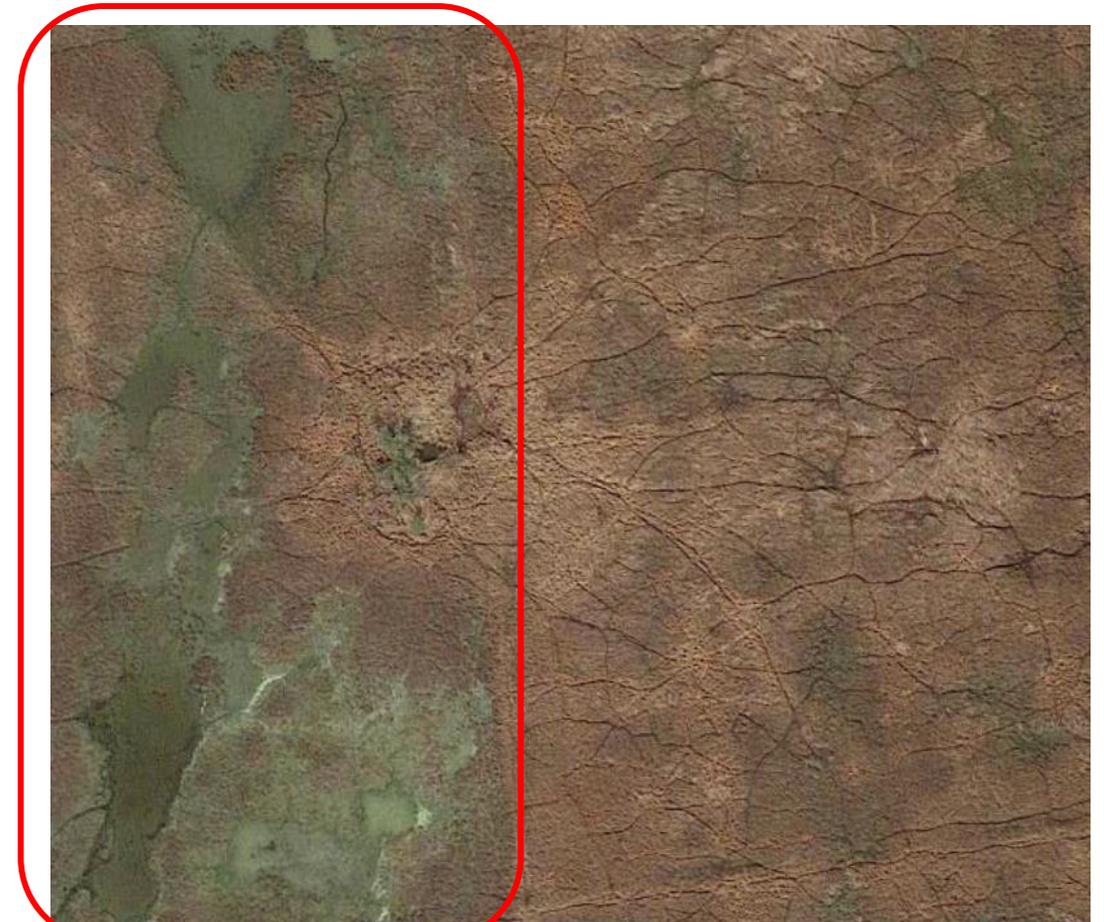


3. チュウヒの越冬なわばりへの影響

2018年



2021年



植生の衰退に伴う開放水面の増加(赤枠)と獣道の増加→採食・就峙環境の質の低下(なわばりの消失)



3. (参考)チュウヒのねぐら環境





3. チュウヒの営巣場所への影響

2018年



2021年

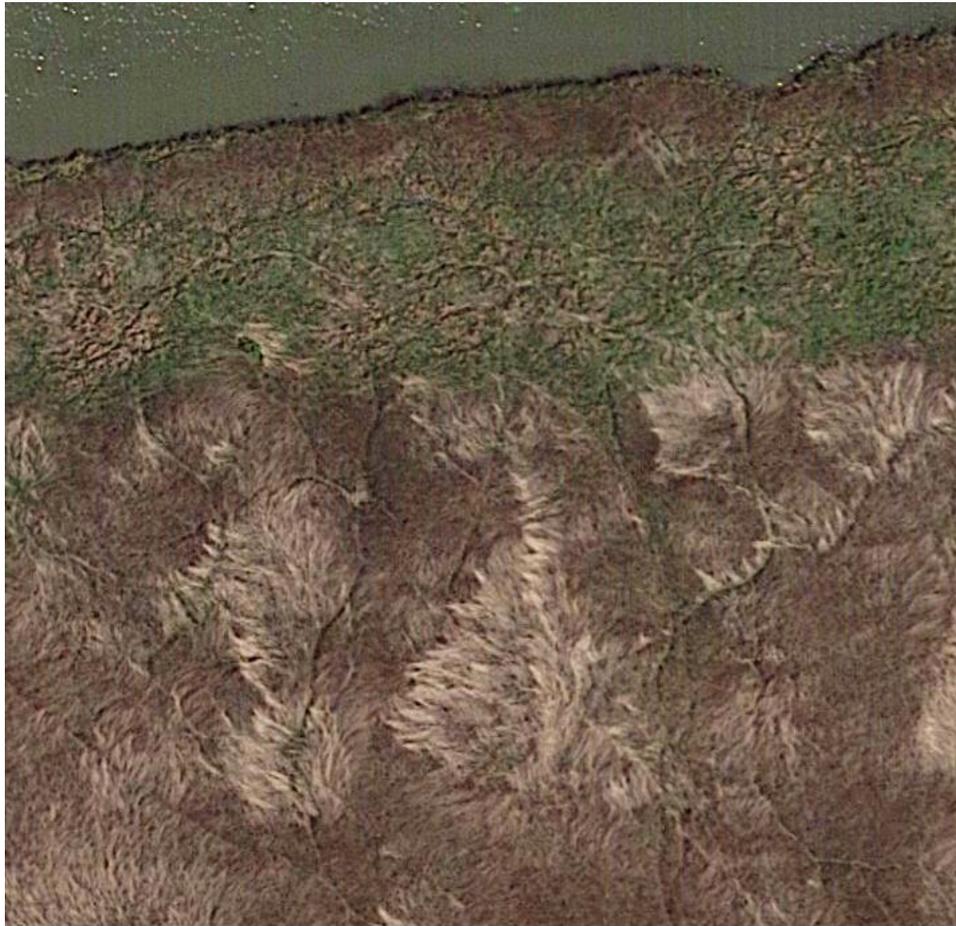


過去の営巣場所周辺での獣道の増加→**営巣地**として利用されなくなった



4. オオセツカの越冬なわばりへの影響

2018年



2021年



オオセツカのなわばり(赤柾)の植生の衰退と周辺の獣道の増加→採食環境の質の低下(なわばりの消失)



4. (参考)オオセツカの越冬環境





5. まとめ

- ・チュウヒやオオセツカなどの低層湿地の希少鳥類の生息には、ヨシ・スゲ群落などの良質な植生環境が必要である。
- ・観察地では**大型哺乳類の増加**と同時期に、湿地内のヨシ・スゲ群落の衰退(下層植生の消失、草丈の低下、生育密度の低下や裸地化)や、**希少鳥類の生息状況の悪化**が観察されている。
- ・因果関係は十分に立証できていないものの、大型哺乳類の増加による低層湿地の希少性鳥類への悪影響について、**今後も注目していく必要があると考えられる。**